

## 心筋ブリッジが冠動脈プラークおよび心筋虚血に与える影響に関する研究

### 1. 研究の対象

2010年8月30日～2021年3月31日までに当院で心臓CT検査を施行された方

### 2. 研究目的・方法

心臓に影響する血管を冠動脈と呼びます。冠動脈は通常心臓の筋肉(心筋)の表面を走行するため、心筋収縮による圧迫を受けません。しかしながら、冠動脈の一部が心筋内を走行すると、心筋収縮に伴い、冠動脈の一部が圧迫されることがあります。この冠動脈を取り囲む心筋を心筋架橋あるいは心筋ブリッジと呼びます。心筋ブリッジは心臓が収縮する際(収縮期)に冠動脈を圧迫するため、心臓が拡張している時(拡張期)に多くの血流が流れる冠動脈血流への影響は小さいと考えられてきました。最近の研究では、心筋ブリッジによる冠動脈の圧迫は収縮期のみならず拡張期にも及ぶことが明らかとなり、心筋への血液供給の障害に関与することがわかってきました。一方で、心筋ブリッジの診断は侵襲的な冠動脈造影によってなされてきたため、どの程度の人に存在するのか、またどの程度症状に影響するのかよくわかっていません。画像診断の進歩によって、当院では冠動脈CTを用いて心筋ブリッジを非侵襲的に評価することが可能です。本研究はこれまでに撮像された心臓CTを用いて、心筋ブリッジの頻度や心筋ブリッジと冠動脈プラークの関連など、心筋ブリッジが心臓に及ぼす様々な悪影響を調査することが目的です。

研究の方法は、2010年8月30日～2021年3月31日までに当院で心臓CT検査を施行された方の診療記録を参照し実施する後ろ向き研究です。当院に継続通院されている方は、心臓CT撮影後5年間の臨床転帰を用いて、心筋ブリッジと予後との関連も評価いたします。研究期間は学校長承認後～2026年3月です。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、病名、臨床検査、臨床転帰などの診療情報を研究対象として用います。新たに血液などの試料を採取することはありません。研究中は、患者さんのデータ、画像をすべて匿名化した上で個人を特定できない情報として使用します。また、学会発表や論文執筆の際にも個人情報の保護には最大限配慮いたします。

### 4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関への情報の提供はありません。

### 5. 研究組織

主任研究者 集中治療部 講師 東谷卓美

分担研究者 循環器内科 教授 足立健  
循環器内科 准教授 長友祐司  
集中治療部 准教授 眞崎暢之  
循環器内科 講師 難波貴之  
循環器内科 助教 安田理紗子  
循環器内科 研究科 鏡和樹  
循環器内科 研究科 弓田悠介  
循環器内科 研究科 岩下碧

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 集中治療部 東谷卓美（研究責任者、研究代表者）

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

（電話）04-2996-5200